



「佐々木さんを支援する会」会報

# ウブムエ

事務局 〒235-0041 横浜市磯子区栗木 1-22-3 / TEL 045-774-9861  
洋光台キリスト教会内（蛭川明男牧師）／●世話人会代表 中條 智子  
●事務局長 播磨 聡（広島キリスト教会 TEL 082-293-8683）

ニャルワンダ語で「ウブムエ」(ubumwe) とは、「一致」「調和」「和」を意味する。

## 新しいことを起こしてくださる神様に期待して

佐々木 和之

ささき かずゆき



皆さまは新年をどのようにお迎えになられたでしょうか。コロナウイルス感染により命を脅かされている方々、休む間もなく、命の危険に晒され

ながら働いておられる医療従事者の方々、そして、様々な理由のために減収あるいは無収入になり困窮されている方々のことを覚え、祈っています。相も変わらずPCR検査に対する後ろ向きな姿勢を取り、医療関係者の必死の訴えを無視して Go To キャンペーンなるものを強行し（ようやく一時停止になったようですが）、逼迫・疲弊している医療機関・従事者や、最も困窮している事業者・個人への補償・支援はそっちのけの現政権を見ると、これから年末・年始にかけて、ますます危機が深まるのではないかとこの危惧を抱かざるを得ません。一日も早く市民の声が政権を動かし、一部の政治家、官僚、業界団体の利害に左右されるのではなく、人々の命と生活を守るという当たり前のことが最優先のコロナ感染拡大予防措置が打ち出されますように。そして、日本の皆さまが危機的な状況を脱し、今年一年、皆さまが過ご

される一日一日に、神様のお守りと祝福がありますようにお祈りいたします。

前号でお伝えしましたように、ルワンダでは10月以降、コロナ感染拡大が沈静化したと見られたため、学校や大学が再開されて現在に至っています。しかし、12月以降、感染拡大が全国各地で顕著になっていることから、少なくとも今後3週間、公的・私的な場での結婚式や祝賀会を含むあらゆる集会の禁止や、夜8時から翌朝までの外出禁止などの措置が再び導入されることになりました。

私の活動の拠点であるプロテスタント人文社会科学大学 (PIASS) は、11月以降、キャンパスでの教育活動を再開し、これまでに上級生の授業と年度末試験を終えることができましたが、1年生の補講と年度末試験はまだこれからです。通常であれば9月に終わる2019-2020年度を年末までに終わらせる計画でしたが、この様子ですと、年度を終え、新しい年度を始められるは、2月以降になりそうです。

2020年も残すところ2週間となりました。一年間を振り返ると、取り止めになったり、終わられないでいることも多くありますが、コロナ禍への対応に追われたこともあり、息切れしそうな

りながらも何とか長距離走を続けてきたという感じです。残念なこともありました。特に、今年度は受入れが決まっていた日本人留学予定者の4名全員が、日本政府の渡航制限措置により、留学生生活を断念せざるを得なくなりました。将来の見通しが立たないこと、また、行動に様々な制限が課されることは辛いですが、日常とは違う状況だったからこそ踏み出せたこと、あるいは、そのような状況にも関わらず実現できたことがあることを思わされています。

### ■ オンライン报告会・講演会

前号でお伝えしましたが、9月24日、日本とルワンダを繋ぐオンライン报告会を開催し、200名以上の方々にご参加くださいました。例年通り日本に帰国しての報告活動が一切できず、支援会の財政状況がますますひっ迫することが危惧されたため、オンラインでの初めての报告会を実施することにしました。通常の报告会のように、私あるいはルワンダの状況を知る日本人が報告するという形ではなく、オンラインだからこそ、ルワンダで共に働く同僚たち、学生たち、そして草の根で和解と共生の歩みを続ける方々の声を日本の皆さまにお届けすることができました。また、その他にも四回、ルワンダの現状や活動の様子をオンラインでお話する機会を持つことができました。

### ■ ウムチョ・ニャンザのネット販売サイト

ご存知のように、女性協働グループ、ウムチョ・ニャンザの女性たちが作った布製品やブックカバーのネット販売サイト、「ウムチョ・ニャンザストア」(<https://umucyonyanza.stores.jp>)が11月にオープンしました。本誌50号で、コロナ感染拡大予防のロックダウンによってもたらされた苦境を、彼女たちがどのように助け合い生き延びたのかについてお伝えしました。5月下旬に活動を再開した後、以前よりもずっと積極的に活動に取り組むようになった彼女たちでしたが、例年

のように恵と私が日本に持ち帰って販売する道が閉ざされてしまいました。そこで、ネット販売サイトの立ち上げという新しい一歩を踏み出すことになったのです。その最大の立役者は恵ですが、今号の彼女の記事にありますように、多くの方々が彼女の呼びかけに快く応じ、惜しみなくご協力くださったことにより実現したものです。製作者である一人一人の名前が付いた製品を日本で購入して下さった方々が、女性たちへの思いをメッセージとしてウムチョ・ニャンザのフェイスブックに投稿してくださっています。今回始まったネット販売が、単に収益を上げるための手段としてあるのではなく、ルワンダの女性たちと日本の皆さまの心を結ぶために、とても有効な手段となっていることを嬉しく思っています。

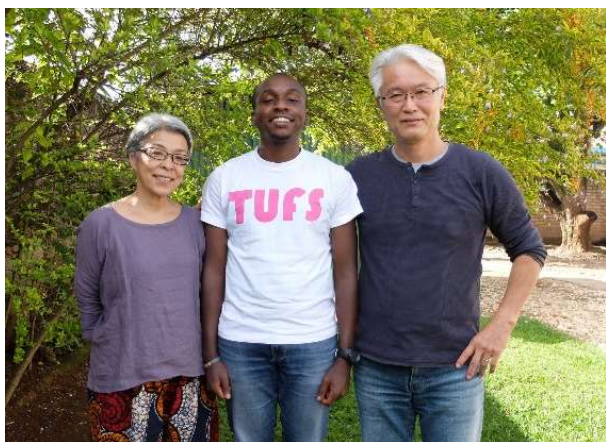
### ■ 日本への留学生派遣

11月23日、ジュスタス・テンボさんとアンリ・ファブリス・ンダイゼイエさんを交換留学生として東京外国語大学に送りだしました。テンボさんはPIASSにとって初めてのウガンダ人。ファブリスさんはブルンジ出身ですが、2015年の政治危機の折に家族と共に国境を越えて難民となり、ルワンダ南東部の難民キャンプで生活しながら高校を卒業した青年です。難民である学生を日本留学に送り出すのは初めてのことです。彼らの基本的な生活費は、日本学生支援機構から支給されることは決まっていたのですが、往復の航空運賃を



東京外大での学びをスタートした  
ファブリスさん（左）とテンボさん（右）

含む渡航費や生活費の補助を捻出する必要がありました。そこで、東京外国語大・現代アフリカ地域研究センターが、4月初旬からの二カ月間、クラウドファンディングを実施してくださいました。その時には既に日本でコロナ感染第一波が深刻化していましたので、「このような時に寄付を呼び掛けるのはどうだろうか?」、あるいは、「必要な資金が集まったとしても、留学生派遣を実現できるのだろうか?」といった懸念がありました。しかし、武内進一教授をはじめ、東京外大の皆さまが、様々な企画が中止や延期になり、皆が後ろ向きになっている「このような時だからこそ」との思いで、クラウドファンディングの実施を決断されたのです。幸いに多くの皆さまから暖かいご寄付が寄せられ、クラウドファンディングが成立しました。当初の予定から二カ月遅れではありましたが、テンボさんとファブリスさんが日本での留学生生活をスタートできたことに感謝しています。



ロドリグさんの出発の前に

12月初旬には、イチシャーツェ・エリ・ロドリグさんが日本に到着しました。ブルンジ人のロドリグさんは、2018年9月からの約一年間、東京外大の学部生として学びましたが、帰国後にPIASS 平和・紛争学科の学士課程を修了し、今度は日本の国費留学生として東京外大「平和・紛争研究修士コース」での研究生生活に入りました。平和主義を掲げるクエーカー派の牧師の息子として生まれ育ち、イエス・キリストに従って生きることを第一とし、何事にも誠実に取り組もうとする彼を、今後神様がどのように用いていかれるのか、私はとても楽しみにしています。PIASS で働き始めた頃、教え子が日本の大学院に進学するなど考えてもみませんでした。しかし今は、後輩たちが彼に続くであろうことを確信しています。

「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。」(イザヤ書 43 章 19 節)

今から 15 年前、ルワンダで活動を始めた当初には想像すらできなかった「新しいこと」を、神様は次々と起こしてくださいました。コロナ禍に見舞われた 2020 年も、いくつかの大切なことが芽生えました。2021 年における私たちの歩みも決して容易なものにはならないでしょう。しかし、新しい年に神様が芽生えさせてくださる「新しいこと」を見逃すことなく、日々の具体的な行動の中で、それらを根付かせていきたいと願います。皆さまどうぞ新年も変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 日本の皆さまとの繋がりに感謝!

ウムチョ・ニャンザ 初代代表・現会計担当

ムカンガンゴ  
・エスペランス

皆さまこんにちは。ニャンザ郡ブササマナ村で活動するウムチョ・ニャンザの初代代表で、今は会計を担当しているムカンガンゴ・エスペランス

と申します。和解と共生という目標を掲げ、私たちがウムチョ・ニャンザを結成した当初にはもっと多くの女性がいましたが、今は 14 名で活動し



エスペランスさん

ています。切り花作りの活動から始めましたが、その後、ミシンを使っての創作活動に取り組み始めました。

日本の皆さまからのご支援で足踏み式のミシンを手に入れ、その後、ミシンの使い方を含む洋裁技術のトレーニングを受けることができました。私たちのほとんどは、全くミシンを使ったことがありませんでしたが、恥ずかしがらずにお互いに教え合って成長しました。今は、ミシンを使って様々な製品を作り、販売できるまでになりました。

最初は、子どもたちの通学用のバックを作りました。地域の人々がそれをとても気に入ってくださいました。洋裁の技術の向上にともない、開襟シャツなども作って販売できるようになり、注文販売も受け付けています。私たちのモットーは、プロとして質の高い製品を作ることです。お客様の間で私たちの製品が評判になったのが励みになり、その後、日本での販売のために、トートバックの製作を始めました。その他、エプロン、マスク、ヘアバンドのセットやテーブルライナーなども製作して日本に送っています。

今年（2020年）の3月下旬、コロナ感染拡大により、ロックダウンが始まりました。その影響で工房での活動を停止せざるをえませんでした。私たちは電話連絡を取り合うなどして団結を保ちました。ロックダウンが思いのほか長引いたことにより、私たちの生活も次第に苦しくなってきました。しかし、私たちは製品販売によって得た運営資金が共同口座に残っていたので、その一部をウムチョのメンバーに平等に支給することで、メンバーの家族が飢えにさらされるのを何とか防ぐことができました。コロナ禍が始まって以降、これまでに二回、各メンバーの生活支援のために現金支給がなされています。その他に

も、雨期が始まった9月、作物のタネを購入する資金を支給することにより、メンバーがそれぞれの農地に作物を植え付けることができました。間もなくその時に植えた作物が収穫できる見込みです。

ロックダウンが解除された5月下旬、私たちは工房での活動を再開しました。記憶が曖昧になった作業の工程についてはお互いに教え合い、今は以前の様に製品作りに取り組んでいます。工房で働く女性たちの団結は以前より強まっています。

ウムチョ・ニャンザには、刑務所で服役している夫を持つ女性たちがいます。彼女たちを支えるため、私たちは昨年、刑務所の夫を数名のメンバーと一緒に訪ねることを始めました。最近、そのうちの一人が刑務所から出所を許され、私たちがミーティングのために集まっている工房を訪ねて来ました。私たちは皆、彼を喜んで迎えました。このようなことが起きることなど、以前では全く想像できないことでした。しかし、妻であるペラジアさんは、ウムチョの女性たちは既に和解し、お互いを許し合っているから工房に来て大丈夫だと夫であるその男性に話したのです。



刑務所から出所した夫を工房に連れてきたペラジアさん（左）

以前私たちは、洋裁など既に年を重ねた私たちにはどうも無理だと思っていました。しかし、今ではもっと先を目指しています。今の私たちのビジョンは、私たちの製品を日本に限らず、他の別の国々でも販売し、生活レベルをずっと良いものにしていくということです。

日本で私たちをこれまでご支援くださった皆さまに申し上げます。ルワンダは過去にひどい時期がありましたが、今は、良い指導者のもと、ジェノサイドの加害者と被害者が歩み寄るまになりました。ウムチョ・ニャンザはその象徴です。日本の皆さまには、私たちルワンダ人の歴史から大切なことを学んでいただけるのではないかと思います。

これまで私たちを愛し、ウムチョ・ニャンザのために支援を惜しまず、日本の皆さまと繋いでく

ださったカズとメグミに感謝いたします。また、私たちをこれまで支援し、私たちの製品をご購入下さっている皆さま、そして、ウムチョ・ニャンザ「日本支部」として、在庫管理や製品の発送作業を担っておられる皆さまに感謝いたします。どうか皆さまにとって新年が幸せいっぱいになるようにお祈りいたします。これからも皆さまと繋がっていけるようにと願っています。ムラコゼ・チャーネ！（皆さま、ありがとうございます！）

## 「ルワンダの希望の光が届き始めている」

佐々木 恵

さ さ き め ぐ み

### ーウムチョ・ニャンザストアの報告ー

2020年は、ウムチョ・ニャンザにとって、画期的な変化の年になりました。ご存知のように、「ウムチョ・ニャンザストア」というオンラインショップを立ち上げて、11月1日に販売を開始したことです。12月8日現在、437,500円の売り上げを記録しています。「佐々木さんを支援する会」の多くの方々にもご購入いただき、心より感謝申し上げます。

9月のオンライン報告会での内容と重なる部分もありますが、今回はまずこのオンラインショップについて報告いたします。これまで、年2回の帰国時を利用してウムチョ・ニャンザの製品を販売してきましたのですが、今年はコロナの影響で帰国が叶わず、「カタログ販売だったら売れるかなあ？」と、販売について思案していました。ちょうどその頃、支援会のオンライン世話人会があり、そのことについて相談させていただいたのですが、世話人の方々の反応は思いもかけずとても積極的なものでした。「それは是非やりましょう。ウブムエと一緒にカタログを発送することもできるでしょう。」と、背中を押していただいたのでした。私は元々新しいことにチャレンジするの



自分たちが作った製品のカタログに見入る女性たち

が億劫なほうですが、このように強力なサポートをいただいたことで、新しい一歩を踏み出すことができたのでした。

特に洋光台教会の蛭川明男牧師には全面的に協力をいただき、販売のための銀行口座のことから、発送手段の確保に至るまで全て整えてくださいました。カタログのデザインに関しては、プロテストント人文社会科学大学 (PIASS) の元留学生・桂川睦美さんがルワンダに在留されている時から日本に帰国された後まで一手に引き受けて

くださいました。ところが、このように販売開始の準備を進めていくうちに、ルワンダと日本という遠距離における在庫数管理の困難さが確実に予想されたことから、カタログ販売から在庫数管理の楽なオンラインショップへと発展していったのでした。そして、このオンラインショップのデザインに関しても先ほどの桂川さんが続けて担当してくださり、クリスマスバージョンにしたり、新作の入荷に当たっては追加の情報をアップしてくださるなど、いつも快く対応をしてくださっています。その上、実際の商品発送に関しては洋光台教会の主任牧師の萩原永子先生ならびに事務をされている方々が自称「ウムチョ・ニャンザ日本支部」を作ってください、奉仕いただいているのです。

ところで、オーダーを受けた商品は、前述のように横浜にある洋光台教会から発送をしているのですが、ルワンダから日本に発送するにあたっては、製品を詰め込んだスーツケースを日本に帰国した元 PIASS の日本人留学生や、PIASS 大学から東京外国語大学に留学すべく出発した二人の学生に持って行ってもらっていました。しかしこれからは、日本への渡航者が都合の良い時にいるわけではないので、国際速達郵便を使った発送も検討中です。来年販売の製品からは早速試してみたいと思います。

このようにオンラインショップの販売は、多くの方々に支えられ、ワクワクドキドキしながら喜びと感謝の連続でした。お客様からのオーダーは、日本とルワンダ間でインターネットで情報を共有し合い処理しています。このような状況における事務手続きにはトラブルがつきものだと思います。しかし、実際の発送と商品管理の仕事をしてくださる「ウムチョ・ニャンザ日本支部」の方々の細やかな心遣いには感謝の念に耐えられません。そこにはいつも「ウムチョ・ニャンザ」で働く 14 人の女性たちへの熱い思いに支えられたご奉仕があるのです。また、ストアの開店と同時にフェイスブック上でも「ウムチョ・ニャンザ」の情報を

発信してきたのですが、そこで繋がってくださった方々を通して、「ウムチョ・ニャンザ」の女性たちの発する和解のメッセージを自分の喜びとして受け止めて、購入してくださる方の投稿を見ることができ、そのことも大きな感謝です。以下、2 つほどご紹介いたします。

「ルワンダのオーナメントとテーブルライナーが、待降節の飾りになりました。私にとってウムチョ・ニャンザは、和解のシンボル。真の和解は、そんなに簡単なものではなく、だからこそ希望を持ちながら待ち望みたいと思いました。」

「ルワンダ、ウムチョ・ニャンザの聖書カバーと、バッグが届きました。ジェノサイドの生存者 7 人、加害者を夫に持つ 7 人の女性 14 人が、和解と共生の歩みを進めておられる活動の裏りを分けていただきました。タグには製作者のお名前が記されており祈りを捧げました。ルワンダへも連れて行っていただき、出会いと問いを与えられました。記憶に改めて刻んでいます。聖書カバーは、サイズピッタリです。バッグはわたしが大好きな深いブルー。ムラコゼ チャーネ！」

さて、ウムチョ・ニャンザの女性たちも今回のオンラインショップでの販売を感謝とともに深く受け止めており、より良い製品をお届けできるように努力しています。そしてまた、私たちがこの活動をしているのは、現金収入の確保のためだけではなく、「ルワンダから希望の光を届ける」というメッセージが伴ったものなのだという事をいつも確認しあっています。

工房ではまず各人同数に割り当てられたオーダーを受け、出来上がりをチェックされ、合格したものが現地価格で買い上げられます。女性たちはそこから縫製代と材料費を工面します。縫製代は作品によって決まっており、1 枚につき、1,000 フランから 4,000 フランが支給されています。しかし中には健康状態が悪く製作が思うようにできないメンバーもいますし、作品によってはまだ技術が伴わないというメンバーもいるわけです。そのような場合は割り当て分を他のメンバーに

代理として縫ってもらうことになるのですが、全員で決めた割合に従って縫製代の何割かがその代理人に支払われます。このような仕組みになるまでには、縫製の得意なメンバーばかりが高収入を得るといった問題が発生し、メンバー間にしこりが生まれたという過去の経験があるのです。こういう問題を自分たちで克服しながら、より良いルールを作り上げている彼女たちの努力を誇らしく思います。

ところで、クリスマスには新商品としてパッチワークのテーブルライナーとガーランドを販売しました。ガーランドというのは、三角に縫った布 10 枚を紐に繋げた飾りなのですが、クリスマス製品の入荷をお知らせした 12 月 1 日には、5 枚だけしかショップに掲載できなかったこともあり、多くの方から品切れに対する「残念！」という声をいただきました。この作品の裏話を少々いたします。

ある日、工房についた途端に「恵、チラコメエチャーネ！＝これ、とっても難しい！」とガーランドを縫っている女性たちが訴えてきました。見ると、確かに縫い目は乱れ、何度も縫い直した跡がボソボソになっていました。縫い代の折り方が三角の先端で難しいことに加え、三角の斜辺がミシンにかけると伸びて縫いにくいのです。私はクリスマスに向けて、ガーランドとテーブルライナーそれぞれ各自 1 枚ずつ合計 14 枚ずつのオーダーを出したのですが、テーブルライナーが綺麗に 14 枚仕上がっているのに反して、ガーランドの方は 8 枚しか出来上がっておらず、その内 3 枚は売り物にならない状態でした。しかし女性たちの努力は手にとるようにわかり、私が指導した縫い方が彼女たちの技術に合っていなかったと反省したのでした。結局、合格した 5 枚だけをその他の製品と一緒に送り出しました。

こうして女性たちと関わっていると、どうしても品質のチェックが甘くなりそうです。彼女たちの努力が手にとるように分かるからです。私が製品の問題を指摘すると、どんなに自分が努力した

か、どれだけの時間を費やして制作にあたったかを説明し、どうかお情けで合格してもらえるように懇願が始まることもあります。一人で品質管理をしていると、「これくらいなら大丈夫かなあ・・・」と切り捨てられない気がしてきて判断が鈍ってしまうのです。そこで今回は、ガーランドが日本に着いた時にその出来をウムチョ・ニャンザ日本支部の方々にも厳しくチェックしていただき、その上でクリスマス商品として掲載しました。2021 年のクリスマスにはもっと縫いやすい方法を考えて、素敵なガーランドを十分な数お届けできるようにしたいと思います。

最後になりますが、初めての売上金は、12 月 29 日に日本のウムチョ・ニャンザの口座に振り込まれることになっています。オンラインショップにかかる 5%の手数料、送料などの全ての経費、そして現地価格での買い上げ金を差し引いて、残りは全てウムチョ・ニャンザに寄付として捧げます。女性たちはこれまでも毎年、家族 5 人分の国民健康保険料を受け取ってきましたが、今年は特に、コロナの影響による生活苦に対し、緊急支援金として 2 万フラン (約 2,200 円) を 2 回ずつ全員に支給することを女性たちが決定しました。このように、確実に女性たちの生活が向上していることをお伝えして報告を終えたいと思います。クリスマスのお祝い会には、縫製代として得た収入でオーダーした新しいアフリカドレスを身につけてくることでしょう。女性たちの晴々しい顔が今から想像できるようです。

(2020 年 12 月 8 日記)



ロックダウンが緩和され、約 2 カ月ぶりに活動を再開した女性たちと



## ● 「ウムチョ・ニヤンザ」の製作品のご購入をお願いします！

ルワンダのニヤンザという町で活動している女性たち 14 人のグループ『Umucyo・Nyanza』、1994 年にルワンダで起きたジェノサイド、その被害者の女性たちと、加害者を家族にもつ女性たちが今、和解と共生そして生活の向上の道を共に歩んでいます。

11 月にウムチョ・ニヤンザストアを開設し、この活動から生まれたアフリカの布を使った色鮮やかなブックカバーやトートバッグが購入できるようになりました。平和と和解の祈りこめて、心を合わせて作られた作品をご覧ください。ストア開設以来、多くの方にご購入いただき、ありがとうございます。売り切れが続出しましたが、現在、新しい商品を入荷しています。ぜひ、ストアにお立ち寄りください。



## 事務局からのお知らせ

- 新型コロナウイルス感染により PIASS での授業も影響を受けています。日本から留学生をお迎えすることもできません。感染が収束するように祈りましょう。
- PIASS から東京外国語大学へ留学されたファブリスさんとテンボさん、ロドリグさんの日本での生活が守られ、良い学びができますようにお祈りいたします。
- 1 月 28 日に、佐々木和之さんのオンライン報告会を計画しています。ぜひ、ご参加ください。
- 毎号のお願いで恐縮ですが、支援会財政がひっ迫しています。16 年に及ぶ皆様のご支援に感謝しつつ、支援会へのご入会、また一時的な支援金送付など、これまでと変わらぬ祈りとご協力をお願いいたします。
- 事務作業を簡素化するため、すべての支援者に一律に「振替用紙」を同封させていただいています。

●郵便振替口座 00250-0-112907 佐々木さんを支援する会●

- 佐々木さんを支援する会HP（ホームページ）

<http://rwanda-wakai.net/>

佐々木さんの活動報告、写真館、等。HP から入会手続きも可能です。佐々木和之さん、恵さんのブログも適時更新しています。

- 世話人会 中條智子（長住教会牧師）、加藤 誠（大井教会牧師）、播磨 聡（広島教会牧師）、蛭川明男（洋光台教会牧師）、米本裕見子（日本バプテスト女性連合幹事）